

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	平成22年度内で自動火災通報装置・スプリンクラーの設置設備も順次行われている中、職員の防火に対する関心は高くなる一方で、万が一の火災に対し適切な対応が出来るかどうか不安が生じているも、ホーム独自の消防訓練が定期的に行う事が出来なかった。	職員一人ひとりが、火災・災害等非常時に、冷静で適切な対応が出来るよう、自火報やスプリンクラー等の設備・機能の把握に努め、ホーム内で定期的に防火訓練を行う。	ホーム内を想定した避難訓練を年に一度以上行う。又、防火設備の確認・把握の為、年度毎に前期・後期の二回、設備の役割や使用方法の勉強会を行う。	12ヶ月
2	26 27	ケアプランのモニタリングの方法が確立されておらず、現状はケース記録と連絡帳の内容(又は職員間での聞き取り)から、該当する事項を探し出し、評価に結びつけている為、職員間でのプランの共通認識があまり出来ていない。	的確なモニタリングの方法の確立と、プラン実施中の記録の合理化・工夫。	利用者のケース担当制の導入。その担当者による月に一度のモニタリングの実施、現行のケース記録の方法とプランの実施・経過記録の連動を図る。	10ヶ月
3	1	法人理念「私たちは“和み”の中で“尊厳”をもって“安心”して生活して頂けるよう支援します。」に掲げる“和み”“尊厳”“安心”は、グループホームとして日頃からどのように留意し、ケアに活かしているのか考察する機会が必要である。	法人理念をより具体的に示し、ホーム職員室内に掲示する。又、職員会議等の機会を利用し、“和み”“尊厳”“安心”を考察し、利用者個々のケアに反映させる。	法人理念を地域密着型サービスの意義を踏まえた以下の文「認知症状を極力抑えるために、家庭的な雰囲気の中で、自分らしさを尊重しながら生きがいや楽しみ・喜びを共に見出し、居心地の良い暮らしが継続出来るよう、地域との協力体制を構築し、医療機関等との連携を図りながら専門的なケアを行う。」に具体化する。	12ヶ月
4	13 14	グループホームの意義を踏まえ、認知症高齢者との関わり方やケアの向上を目指し、専門職としての知識やスキルアップに繋げる為の計画的な取り組み(年間計画の策定)が出来ていない。	月例の職員会議の一枠や日常起こりうる困難事例など、随時内部での研修及びケースカンファレンスを開催し、学びの機会を設ける。	ホーム内の年間研修計画の策定や、法人全体の研修、施設見学、外部の研修の参加。	12ヶ月
5	4	運営推進委員会議においては毎回ワンパターンとなり、マンネリ化しつつある。その為、グループホームの取り組みや業務について適切な助言や意見を教授して頂く事が出来ない場合がある。	委員会に諮る議題内容に対して、写真や書類など関連資料を添付、又は可能であればスライドショーなどを、スクリーン(壁)に映し出し、普段は殆ど口頭のみで報告していた内容に、視覚的にも各委員の方々に理解して頂き、より適切な助言や意見が出やすい環境をつくる。	議題の内容に応じ、全委員の方々に理解して頂けるような資料の準備や写真などを添付しながら会議をすすめる。又、ホーム内での各種取り組みを、委員会にて発表及び報告を行う場合には、ホームにて主眼となって対応している職員が出席し、発表・報告を行う。	10ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。